

光陵女子短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

光陵女子短期大学の概要

設置者	学校法人 栗本学園
理事長	栗本 宏
学 長	栗本 博行
A L O	高橋 順三郎
開設年月日	昭和57年4月1日
所在地	愛知県日進市米野木町三ヶ峯4-4

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
国際コミュニケーション学科		100
	合計	100

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

光陵女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念に基づいた教育目的が明確であり、国際関係の深まりを背景として、様々な面で国際的に通じる女性の育成をめざす教育を目標としている。それぞれの専攻・コースにおいて、学生が身につけるべき具体的な目標を掲げ、志願者動向に応じて教育目標を変更している。改組・コース改編は3年間隔を目安に行うべく、議論されている。

国際を意識した教育課程を構築し、特にIT関連のものは充実している。資格取得への配慮がなされ、専攻・コースや多様な選択科目は学生のニーズに込えている。

パソコンの無償配布や学内無線LANの完備、多数の外国人教員の採用などによって、コンピュータ・リテラシーや英語教育に積極的に取り組んでいる。

単位認定方法は適切であり、各教員は学生の満足度に対応し、授業改善に励んでいる。また、退学、休学、留年などに係わる学生には教職員が十分にケアをしている。

入学試験の志願者へのサービス、新入生の履修指導、在学生の進路指導、および学生生活全般にわたり、同一法人設置の名古屋商科大学との連携のもとで、高度なウェブシステムも駆使して組織的に学生支援が実施されている。

理事長のリーダーシップのもと、同キャンパス内の名古屋商科大学とともに適切に財務管理が行われている。

自己点検・評価への取組みは、その体制が整いつつあり、今後の評価結果の活用や継続的な評価活動が期待される。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

学生に国際感覚を身につけさせようとする多様な取組みがなされている。

評価領域 教育の内容

2年間にわたるセミナー教育は少人数によるクラス体制で、最終的に卒業論文に至るプロセスとなっており、学生が積極的に参加できる教育内容である。

授業評価の結果を教員別、講義別に学内掲示やインターネット上に公開し、講義の改善・向上に役立っている。

評価領域 教育の実施体制

外国人の専任教員による専門教育が行われている。

パソコン活用の授業体系が生まれ、IT教育の実施体制が整備されている。

評価領域 学生支援

高度なウェブシステムや名古屋商科大学との一体的連携のもとで、きめ細かな学生支援が行われている。

全国各地のアドミッション・オフィサーを活用した入試制度が実施されている。

豊富な奨学金を多数の学生に支給している。

評価領域 社会的活動

国際ボランティア・プロジェクト参加者に渡航費を支給している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

「人格形成」を基盤にした「教養」を短期大学士課程に組み入れることが望まれる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

専攻コースに対応する資格試験の実績を上げるために、教育方法の工夫、改善が望まれる。

評価領域 研究

教員の研究条件向上に対する一層の配慮が求められる。

評価領域 社会的活動

地域住民向けの公開講座、生涯学習授業の一層の充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

国際感覚を身につけた自立した日本人女性の育成を願う精神を貫いている。

教育目標の点検は学科、専攻コースの位置づけの見直しと考え、毎年の志願者動向を考慮に入れながらカリキュラムの見直し作業を行っている。

教育目標はパンフレット、入試要項、新入生オリエンテーション冊子、ウェブサイト、シラバスにおいて周知、徹底を図っている。また、教育目標をキャンパス内に“Mission Statement”として掲示している。

評価領域 教育の内容

「国際教養」を「現実世界に生起する様々な問題に対して、政治的・経済的・歴史的・地理的・心理的等様々な角度から問題解決に向けたアプローチが出来る」こととして捉えているが、それが学科目にもどう反映されているかは必ずしも明確になっていない。しかし、英語科目すべてに専任教員が配置されるなど、教員の配置はおおむね適切であり、授業の単位認定と評価も適切に行われている。

少人数クラスでの授業を積極的に取入れ、また選択科目も多く、多種多様な資格取得への配慮もなされている。

全講義について学期の終了前に授業内容、授業運営、教授法などの授業評価を行っている。結果は担当教員に返され、教員は講義の再点検と改善をしている。また、授業改善のための委員会組織が設置され、活発に活動をしている。

評価領域 教育の実施体制

専任教員 9 名中 5 名が外国人であることをいかした特色のある授業を展開している。オフィス・アワーの実施など、学生指導にも力を入れている。また、教員の年齢構成もバランスが取れており、将来を見据えた教員人事が展開されている。

同一学校法人設置の名古屋商科大学と敷地を共用していることもあって、短期大学としては十分な教育環境を有している。また、AV機器が充実している上、学内無線LANを完備しており、ノートパソコンの無償配布とあいまって充実した授業環境である。

図書館は名古屋商科大学との共用施設でもあり、AV機器、講堂、演習室などの設備は充実している。図書館が教員から事前にレポート課題を入手し、レポート相談コーナーを設置するなど、活性化の試みがみられる。また、図書館員がシラバスをチェックし、必要な文献を購入するシステムも構築されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定は適切に行われている。また、単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による成績評価は全体的にバランスが取れている。

退学、休学、留年などの学生に対するケアは、セミナー担当教員、事務長、教務係職員らが個別の面接を繰り返し、アドバイスを行っている。

評価領域 学生支援

事務局の入試係と入試委員会、さらに全国に配置しているアドミッション・オフィサーが中心となって、広報活動から入試の実施に至る業務を組織的に実施している。

学内情報はウェブサイトで日常的に提供されており、これが双方向であることから、有効に機能している。

教務学生委員会を設置して定期的を開催し、カリキュラム、学校行事、課外活動などについて、日常的に学生支援を行っている。休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置など、学生のキャンパス・アメニティへの配慮もなされている。

教員 2 名、事務職員 2 名で就職委員会が構成され、各セミナー教員と連絡を密にして就職支援を組織的に実施している。四年制大学への進学希望者に対しても、就職支援と同様に 1 年生の秋学期から徹底した指導が行われている。

評価領域 研究

研究紀要への発表や科学研究費補助金の採択実績などは充分であり、研究活動は活発に行われている。

評価領域 社会的活動

約5%の学生がボランティア活動やインターンシップに参加し、単位認定を行っている。国際ボランティア・プロジェクトにも学生が参加し、学生の社会的活動は促進されている。

評価領域 管理運営

同キャンパス内の名古屋商科大学と共同の運営であり、理事会、評議員会は適切に運営されている。また、学長のリーダーシップが発揮されている。

評価領域 財務

財務運営など各機能は有効に働いている。財務状況は健全であり、また施設設備は全学的に適切に管理されている。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価体制については、新しい体制が構築されつつあり、点検・評価の成果の活用は今後の課題である。